

当院で周産期管理を受けられた患者さんの情報を

研究に利用することについてのお知らせ

小倉医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。本研究に関するご質問等がありましたら下記の[当院の問い合わせ窓口]までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、当該研究に検体・カルテ情報が用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の[当院の問い合わせ窓口]までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 当院の産科危機的出血症例の検討

[当院の研究責任者] 産婦人科医師 川上浩介

[研究の背景]

当院は地域周産期母子医療センターの役割として産科危機的出血をはじめとした重篤な合併症の母体の治療を行っています。安全に母体救命に関する医療を提供するためには日常的な訓練が必要です。当院では安全な母体救命医療を行うために J-CIMELS(日本母体救命システム普及協議会)や ALSO(Advanced Life Support in Obstetrics) などの産科に特化したシュミレーション教育を積極的に導入し、定期的に母体救命の訓練を行っており、インストラクターとして近隣一次施設への教育活動も行っています。

[研究の目的]

今回 J-CIMELS や ALSO のシュミレーション教育が臨床現場に与えた影響を検討し、より安全な医療が提供できるシュミレーション教育を模索します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

当院にて西暦 2016 年 1 月 1 日から西暦 2019 年 12 月 31 日の間に周産期管理を行った患者さん

●研究期間：西暦 2020 年 1 月 1 日から西暦 2020 年 12 月 31 日

●利用する検体、カルテ情報

カルテ情報：

診断名、年齢、性別、分娩週数、分娩方法、身体所見、検査結果（血液検査等）、輸血

(臨床研究に関する公開情報/単施設実施用)

情報等。

●検体や情報の管理

検体や情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[当院の問い合わせ窓口]

国立病院機構小倉医療センター

産婦人科医師 川上浩介

〒802-8533 北九州市小倉南区春ヶ丘 10 番 1 号

電話 093-921-8881